

会田誠

関連URL・SNS情報

Web : <https://mizuma-art.co.jp/artists/aida-makoto/>

twitter : <https://twitter.com/makotoaida>

1965年新潟県生まれ。1991年東京藝術大学大学院美術研究科修了。絵画、写真、映像、立体、パフォーマンス、小説、エッセイ、漫画など表現領域は国内外、多岐にわたる。美少女、戦争画、サラリーマンなど、社会や歴史、現代と近代以前、西洋と東洋の境界を自由に往来し、常識にとらわれない対比や痛烈な批評性を提示する作風で、幅広い世代から圧倒的な支持を得ている。

近年の主な個展に「天才でごめんなさい」（森美術館／東京 2012-13）、「考えない人」（ブルターニュ公爵城／フランス 2014）、「GROUND NO PLAN」（青山クリスタルビル／東京 2018）など。2020年自身2冊目となる小説『げいさい』（文藝春秋）を刊行。

略歴

- 1965年 新潟県生まれ
- 1989年 東京藝術大学美術学部絵画油画専攻卒業
- 1991年 東京藝術大学大学院美術研究科修了（油画技法材料研究室）

主な個展・二人展

- 1996年 「NO FUTURE」 ミヅマアートギャラリー（東京）
- 1999年 「道程」 三菱地所アルティアム（福岡）
- 2002年 「第54回企画 会田誠展」 中京大学アートギャラリーC・スクエア（名古屋）
- 2007年 「アートで候。会田誠・山口晃展」 上野の森美術館（東京）
- 2010年 「絵バカ」 ミヅマアートギャラリー（東京）
- 2011年 「昼と夜」 Contemporary Art Center・現代美術センター（ヴィリニユス、リトアニア）
- 2012年 「天才でごめんなさい」 森美術館（東京）
- 2014年 「Le Non-peunser（考えない人）」 ブルターニュ公爵城（ナント、フランス）
「世界遺産への道！！～会いにいけるアーティストAMK48歳」 霧島アートの森（鹿児島）
- 2015年 「ま、Still Alive ってこーゆーこと」 新潟県立近代美術館（長岡）
- 2016年 「はかないことを夢もうではないか、そうして、事物のうつくしい愚かしさについて思いめぐらそうではないか。」 ミヅマアートギャラリー（東京）
- 2018年 「GROUND NO PLAN」 会田誠展特設会場・青山クリスタルビル（東京）

主なグループ展

- 1993年 「fo(u)rtunes」 レントゲン藝術研究所（東京）
- 1996年 「TOKYO POP」 平塚市美術館（平塚）
- 1998年 「どないやねん！現代日本の創造力」 パリ国立高等美術学校（パリ、フランス）
- 1999年 「日本ゼロ年」 水戸芸術館現代美術センター（水戸）
- 2000年 「Five Continents and One City」 メキシコシティ美術館（メキシコシティ、メキシコ）
- 2001年 「横浜トリエンナーレ2001：メガ・ウェイブ-新たな総合に向けて」 パシフィコ横浜（横浜）
- 2002年 「第25回サンパウロ・ビエンナーレ」（サンパウロ、ブラジル）
「Coloriage（ぬりえ）」 カルティエ現代美術財団（パリ、フランス）
- 2003年 「アメリカン・エフェクト：アメリカについてのグローバル的視点1990-2003」 ホイットニー美術館（ニューヨーク、アメリカ）
- 2004年 「六本木クロッシング：日本美術の新しい展望2004」 森美術館（東京）
- 2005年 「平成17年春 大原美術館 有隣荘特別公開 『会田誠・小沢剛・山口晃』展」 大原美術館 有隣荘（倉敷）
- 2006年 「第1回シンガポール・ビエンナーレ：BELIEF」 National Museum of Singapore, Tanglin Camp・シ

- ンガポール国立美術館、タンリンキャンプ (シンガポール)
- 2008年 「Laughing in a Foreign Language」 ヘイワード・ギャラリー (ロンドン、イギリス)
- 2009年 「Twist and Shout: Contemporary Art from Japan」 バンコク芸術文化センター (バンコク、タイ)
- 2010年 「絵画の庭ーゼロ年代日本の地平から」 国立国際美術館 (大阪)
「第17回シドニー・ビエンナーレ」 (シドニー、オーストラリア)
「Made in Popland」 ソウル国立現代美術館 (ソウル、韓国)
- 2011年 「第3回アジア・アート・ビエンナーレ: Medi(t)ation」 国立台湾美術館 (台中、台湾)
「バイバイキティ!!!天国と地獄の狭間でー日本現代アートの今」 ジャパン・ソサエティ (ニューヨーク、アメリカ)
- 2012年 「ダブル・ヴィジョン: 日本の現代美術」 モスクワ市近代美術館 (モスクワ、ロシア)、ハイファ美術館群 (イスラエル) へ巡回
- 2013年 「昭和40年 会 男木学校 P.SS.40 (瀬戸内国際芸術祭2013)」 高松市立男木小中学校 (高松)
- 2014年 「AAA (Asia Anarchy Alliance)」 開渡美術館 (台北、台湾)
- 2015年 「おとなも子どもも考える ここはだれの場所？」 東京都現代美術館 (東京)
- 2016年 「釜山ビエンナーレ2016 an/other avant-garde china-japan-korea」 釜山市立美術館 (韓国)
- 2017年 「ジャパノラマJapanorama: 1970年以降の新しい日本のアート」 ポンピドゥ・センター・メッス (メッス、フランス)
- 2019年 「Oh! マツリ☆ゴト 昭和・平成のヒーロー&ピーポー」 兵庫県立美術館
「インポッシブル・アーキテクチャーーもうひとつの建築史」 埼玉県立近代美術館 (さいたま) 新潟市美術館 (新潟) 広島市現代美術館 (広島) 国立国際美術館 (大阪) へ巡回
「Japan Unlimited」 frei_raum Q21 exhibition space MuseumsQuartier (ウィーン、オーストリア)
- 2020年 「生きている東京展 アイラブアート15」 ワタリウム美術館 (東京)
「《コロナ時代のアマビエ》プロジェクト」 角川武蔵野ミュージアム (所沢)

今津景

関連URL・SNS情報

Web : <http://www.imazukei.com/>

Instagram : https://www.instagram.com/kei_imazu/

1980年山口県生まれ。インドネシア在住。

今津は歴史的名画の図録や博物図鑑、またSNSで公開された瑣末な写真など、無数のメディアから採取したインターネット上に散見される画像データをPhotoshopで編集し作成した下図をもとに、キャンバスに油彩で描く手法を用いる。タブロー上の筆先のストロークや擦れなども、あらかじめ編集ソフトに備わっている指先ツールやブラシツールを使用して精密に決定しており、重いデータを処理する際に起こるバグの痕跡や、ソフトウェア特有の表示をもモチーフとして取り込む。

科学技術の発展と人類の認知の変化は、有史以前から芸術表現と密接に関わってきたが、今津はコンピュータグラフィックスやスマートフォンの使用が日常になった、現代社会を生きる自身の空間認識や物事に対する反応を絵画に落とし込むことで、美術史上に新たな視点を投げかけることを標榜してきた。歪められ緻密に絡み合ったイメージからは、彼女が長い時間をかけ「絵画そのもの」について、思考と格闘を繰り返してきた痕跡がみられる。

2009年に「VOCA2009」にて佳作賞、2013年には絹谷幸二賞奨励賞を受賞。2020年、現代における絵画表現を後押しするフランスのPrix Jean François Pratではファイナリストに選出された。2017年ミネアポリス美術館に4mを越える大きな平面作品が収蔵されるなど、国内外で大きな注目を浴びている。

略歴

- 1980年 山口県生まれ
- 2005年 多摩美術大学美術学部絵画学科油画専攻卒業
- 2007年 多摩美術大学大学院美術研究科修了

主な個展

- 2006年 「今津景展」 Gallery b Tokyo (東京)
- 2007年 「今津景展」 Gallery b Tokyo (東京)
- 2008年 「今津景作品展」 NICHE GALLERY (東京)
- 2010年 「フラッシュ」 山本現代 (東京)
「第26回作品展 ANA MEETS ARTS 今津景」 ANA羽田空港ラウンジ (東京)
- 2012年 「SHINING REPLACE」 第一生命ギャラリー (東京)
- 2013年 「PUZZLE」 山本現代 (東京)
- 2015年 「Broken Image」 山本現代 (東京)
- 2016年 「Repatriation」 山本現代 (東京)
- 2017年 「OVERGROWN」 ROH Projects (ジャカルタ、インドネシア)
- 2018年 「Measuring Invisivle Distance」 山本現代 (東京)
- 2019年 「Anda disini / You are here」 カスヤの森現代美術館 (横須賀)

主なグループ展

- 2005年 「谷中日和」 GalleryJ2 (東京)
- 2006年 「百花繚乱」 BOICE PLANNING (相模原)
「第三回REUNITED展」 横浜市民ギャラリーあざみ野 (横浜)
- 2007年 「ニッチ・ヤングアーティスト展」 NICHE GALLERY (東京)
『上海芸博会青年芸術家推介展「アジア」アミューズアートジャム』 京都文化博物館5F (京都)
- 2008年 「Who's Next」 MUSEUM at TAMADA PROJECTS (東京)
「EX-SURFACE」 アトランティックギャラリー (東京)
「Women Without Boundaries」 ART LABOR GALLERY (上海、中国)
「These Artists Are Good!」 野田コンテンポラリー (北京、中国)

- 2009年 「ARTIST IN OHIRA-SO STUDIO vol.1」 黄金町バザール大平荘スタジオ（横浜）
「VOCA 2009」 上野の森美術館（東京）
- 2010年 「JAPANESE COLORS」 GALLERY IHN（韓国）
- 2011年 「カルチャー」 アートセンター・オンゴーイング（東京）
「Girlfriends Forever!」 トーキョーワンダーサイト本郷（東京）
- 2012年 「Painting Never Dies」 YUKA TSURUNO（東京）
「ブラインド・サイト -盲視の知覚」 MA2Gallery（東京）
- 2013年 「flowers80.1」 TRAUMARIS（東京）
- 2014年 「吉祥寺の日曜日（カダイ） by 大木裕之」 アートセンター・オンゴーイング（東京）
「タグチ・アート・コレクション たぐ展☆」 松本市美術館（松本）
- 2015年 「execution」 山本現代（東京）
「PRUDENTIAL EYE ZONE」 ArtScience Museum（シンガポール）
「パラダイム・シフト」 タグチ・アート・コレクション 岐阜県美術館（岐阜）
- 2016年 「高橋コレクション マインドフルネス！2016」 高知県立美術館（高知）
「Super Open」 Studio福永スタジオ（相模原）
「Welcome to the AWESOME MANSION」 山本現代（東京）
「4th Annual Collectors' Contemporary Collaboration—Intimate Curiosity—
Invitation to Japanese Collectors of Contemporary Art」 Hong Kong Arts Centre（香港）
- 2017年 「In Focus: Japanese Contemporary Art」 Minneapolis Institute of Art（ミネソタ、アメリカ）
「#10 Object Manipulation」 statements（東京）
「Spring Fever」 駒込倉庫（東京）
「Sylvanian Families Viennale」 xyz collective（東京）
「Perspectives」 インターメディアテク（東京）
- 2018年 「21世紀の美術 タグチ・アートコレクション展」 平塚市美術館（平塚）
「コレクションのススメ展2018」 カスヤの森現代美術館（横須賀）
- 2019年 「あいちトリエンナーレ2019: 情の時代」 名古屋市美術館（名古屋）
「ArtJog MMXIX ART IN COMMON」 ジョグジャカルタナショナルミュージアム（ジャカルタ）
「アートと人と、美術館」 横浜美術館（横浜）
「六本木クロッシング2019：つないでみる」 森美術館（東京）

主な受賞

- 2004年 「東京ワンダーウォール」 入選
- 2006年 「シェル美術賞」 入選
- 2009年 「VOCA 2009」 佳作賞受賞（上野の森美術館）
- 2013年 「第五回絹谷幸二賞」 奨励賞（毎日新聞社主催）

梅沢和木

関連URL・SNS情報

Web : <https://www.umelabo.info/>

Facebook : <https://www.facebook.com/umelabo>

Instagram : <https://www.instagram.com/umelabo/>

twitter : <https://twitter.com/umelabo>

1985年生まれ。武蔵野美術大学映像学科卒業。美術家。インターネット上に散らばる画像を集め再構築し、圧倒的な情報量に対峙するときの感覚をカオス的な画面で表現する作品を制作し、発表している。CASHI所属。

略歴

1985年 埼玉生まれ

2008年 武蔵野美術大学造形学部映像学科卒業

主な個展

2009年 「エターナルフォース画像コア」 Frantic Gallery (東京)

2010年 「カオス見てから画像余裕でしたコア」 Hidari Zingaro (東京)

「美しい画像コア」 CASHI (東京)

2012年 「大地と水と無主物コア」 CASHI (東京)

2013年 「梅沢和木回顧展」 CASHI (東京)

「エクストリームAR画像コア」 DIESEL ART GALLERY (東京)

2014年 「Empty god CORE」 B2OA gallery (ニューヨーク、アメリカ)

2016年 「画像の紙々」 ゲンロン カオス*ラウンジ 五反田アトリエ (東京)

2018年 「neo X death」 AISHONANZUKA (香港)

2020年 「黒の夢」 CASHI (東京)

主なグループ展

2010年 「カオス*ラウンジ 2010 in 高橋コレクション日比谷」 高橋コレクション日比谷 (東京)

2013年 「LOVE展 アートにみる愛の形 — シャガールから草間彌生、初音ミクまで」 森美術館 (東京)

「手塚治虫×石ノ森章太郎 マンガのちから」 東京都現代美術館 (東京)

2014年 「Duality of Existence — Post Fukushima A group exhibition of Contemporary Japanese Art」 Friedman Benda (ニューヨーク、アメリカ)

2016年 『瀬戸内国際芸術祭2016カオス*ラウンジ 「鬼の家」』 女木島 (高松)

2017年 「Urban Implosion — アジアの都市」 Asia Culture Center/ACC (光州、韓国)

「アートのなぞなぞ — 高橋コレクション展 共振するか反発するか？」 静岡県立美術館 (静岡)

2018年 「HYPER LANDSCAPE 梅沢和木 × TAKU OBATA」 ワタリウム美術館 (東京)

2019年 「百年の編み手たち — 流動する日本の近現代美術 —」 東京都現代美術館 (東京)

「un/real engine — 慰霊のエンジニアリング」 TODA BUILDING (東京)

「Tokyo Pop Underground」 Jeffrey Deich (ニューヨーク・ロサンゼルス、アメリカ)

大山エンリコイサム

関連URL・SNS情報

Web : <https://enricoisamuoyama.net/top>

アーティスト。エアロゾル・ライティングのヴィジュアルを再解釈したモチーフ「クイックターン・ストラクチャー」を起点にメディアを横断する表現を展開し、現代美術の領域で注目される。1983年にイタリア人の父と日本人の母のもと東京に生まれ、同地で育つ。2007年、慶應義塾大学環境情報学部卒業。2009年、東京藝術大学大学院美術研究科先端芸術表現専攻修了。2011年にアジアン・カルチュラル・カウンシルの招聘で渡米。2012年よりニューヨークを拠点にする。大和日英基金（ロンドン）、マリアンナ・キストラ・ビーチ美術館（カンザス）、ポーラ美術館（箱根）、中村キース・ヘリング美術館（山梨）、タワー49ギャラリー（ニューヨーク）で個展を開催。著書に『アゲインスト・リテラシー—グラフィティ文化論』（LIXIL出版）、『ストリートアートの素顔—ニューヨーク・ライティング文化』（青土社）、『ストリートの美術—トゥオンブリからバンクシーまで』（講談社選書メチエ）、企画監修に『美術手帖』2017年6月号エアロゾル・ライティング特集、コラボレーションに「コム デ ギャルソン 2012S/S ホワイトドラマ」「シュウ ウエムラ ヴィジョン オブ ビューティー コレクション vol.02 オートストリート」がある。

略歴

- 1983年 東京生まれ
- 2007年 慶應義塾大学環境情報学部卒業
- 2009年 東京藝術大学大学院美術研究科先端芸術表現専攻修了

主な個展

- 2009年 「FFIGURATI」 con tempo（東京）
- 2013年 「Aeromural」 Clocktower Gallery（ニューヨーク、アメリカ）
- 2014年 「Letterscape,」 イセ・カルチュラル・ファウンデーション・フロントスペース（ニューヨーク、アメリカ）
「Quick Turn Structure」 ニュージャージー・シティ大学ビジュアルアーツ・ギャラリー（ニュージャージー、アメリカ）
- 2015年 「Improvised Mural」 Triangle Space ロンドン芸術大学チェルシー芸術学部（ロンドン、イギリス）
- 2016年 「Like A Prime Number」 大和日英基金（ロンドン、イギリス）
「Present Tense」 Takuro Someya Contemporary Art（東京）
- 2017年 「Ubiquitous: Enrico Isamu Ōyama」 The Beach Museum of Art（ニューヨーク、アメリカ）
- 2018年 「Black」 Takuro Someya Contemporary Art（東京）
- 2019年 「Kairosphere」 ポーラ美術館（箱根）
「Inside Out」 Tower 49 Gallery（ニューヨーク、アメリカ）
「Viral」 中村キースヘリング美術館（北杜）
- 2020年 「SPRAY LIKE THERE IS NO TOMORROW」 藤沢アートスペース（藤沢）
「夜光雲」 神奈川県民ホールギャラリー（横浜）

主なグループ展

- 2009年 「memento vivere / memento phantasma」 旧フランス大使館（東京）
- 2010年 「あいちトリエンナーレ2010」（名古屋）
- 2011年 「世界におけるイタリアのアーティスト展」 イタリア文化会館（東京）
- 2012年 「フィジカル速度 / Physical Kinetics」 Takuro Someya Contemporary Art（東京）
- 2013年 「JAPANESE ARTISTS IN NEW YORK」 丸の内ハウス（東京）
「生成のヴィジュアル—触発のつらなり」 Takuro Someya Contemporary Art（柏）
「FABRIKA」 CTSQ（ニューヨーク、アメリカ）
- 2014年 「KISS THE HEART #3」 伊勢丹新宿+三越日本橋+三越銀座（東京）

- 2015年 「大山エンリコイサム、岡崎乾二郎、今井俊介」 Takuro Someya Contemporary Art (東京)
- 2016年 「VOCA展2016」 上野の森美術館 (東京)
「CRUSH ON ART」 セゾン現代美術館 (軽井沢)
- 2017年 「Sites and Sounds」 Blender Workspace (ニューヨーク、アメリカ)
「Sites of Knowledge」 Jane Lombard Gallery (ニューヨーク、アメリカ)
- 2018年 「Subtle Abstractions」 Dietl International (ニューヨーク、アメリカ)
- 2019年 「Takahashi Collection: The Hometown for Art」 鶴岡アートフォーラム (鶴岡)

岡崎乾二郎

関連URL・SNS情報

Web : <https://kenjirookazaki.com/jpn/>

造形作家。武蔵野美術大学客員教授。

1955年東京生まれ。1982年パリ・ビエンナーレ招聘以来、数多くの国際展に出品。総合地域づくりプロジェクト「灰塚アースワーク・プロジェクト」の企画制作、「なかつくに公園」（広島県庄原市）等のランドスケープデザイン、「ヴェネツィア・ビエンナーレ第8回建築展」（日本館ディレクター）、現代舞踊家トリシャ・ブラウンとのコラボレーションなど、つねに先鋭的な芸術活動を展開してきた。東京都現代美術館（2009～2010年）における特集展示では、1980年代の立体作品から最新の絵画まで俯瞰。2014年のBankART1929「かたちの発語展」では、彫刻やタイルを中心に最新作を発表した。長年教育活動にも取り組んでおり、芸術の学校である四谷アート・ステュディオム（2002～2014年）を創設、ディレクターを務めた。2017年には豊田市美術館にて開催された『抽象の力ー現実（concrete）展開する、抽象芸術の系譜』展の企画制作を行った。

2019年～2020年には同じく豊田市美術館にて全館を使って絵画、彫刻、レリーフなど、旧作から最新作までを展示し、これまでの活動を網羅した「視覚のカイソウ」が開催された。

主著に『抽象の力 近代芸術の解析』（亜紀書房 2018年）、『ルネサンス 経験の条件』（文春学藝ライブラリー、文藝春秋 2014年）、『芸術の設計ー見る/作ることのアプリケーション』（フィルムアート社 2007年）。

『ぼぱーべ ぼびぱっぶ』（絵本、谷川俊太郎との共著、クレヨンハウス 2004年）。

『抽象の力 近代芸術の解析』にて、平成30年度（第69回）芸術選奨文部科学大臣賞（評論等部門）受賞。

略歴

1955年 東京生まれ

主な個展

- 1981年 「たてもののきもち building through construction」 村松画廊（東京）
- 1982年 「個展」 村松画廊（東京）
- 1984年 「個展」 お茶の水画廊（東京）
- 1985年 「個展」 ANDOギャラリー（東京）
- 1986年 「個展」 南天子画廊（東京）
- 1987年 「個展」 南天子画廊（東京）
- 1988年 「個展」 ヒルサイドギャラリー（東京）
- 1989年 「時のかたち」 世田谷美術館（東京）
- 1990年 「個展」 天画廊（福岡）
- 1991年 「個展」 ヒルサイドギャラリー（東京）
- 1992年 「個展」 oxyギャラリー（大阪）
- 1994年 「個展」 アジャン美術館（アジャン、フランス）
- 1995年 「個展」 T3コレクション・ギャラリー（東京）
- 1996年 『個展「平面新作」』 南天子画廊（東京）
- 1999年 「個展」 ゆーじん画廊（東京）
- 2000年 「個展」 南天子画廊（東京）
- 2002年 「個展」 セゾンアートプログラムギャラリー（東京）
- 2004年 「個展」 GALLERY OBJECTIVE CORRELATIVE（東京）
- 2005年 「Painting」 南天子画廊（東京）
- 2006年 「個展」 ゆーじん画廊（東京）
- 2007年 「ZERO THUMBNAIL」 A-things（東京）
- 2008年 「個展」 南天子画廊（東京）
- 2009年 「個展」 ガレリア フィナルテ（名古屋）
「MOTコレクション特集展示 岡崎乾二郎」 東京都現代美術館（東京）
- 2010年 「個展」 南天子画廊（東京）

- 2011年 「個展」ガレリア フィナルテ (名古屋)
- 2014年 「みだるるみだるるながきかみちいさきちょうとちいさきはな篇」 nowaki (京都)
- 2015年 「個展」ガレリア フィナルテ (名古屋)
- 2016年 「個展」Takuro Someya Contemporary Art (東京)
- 2017年 「“Things” never die. It only changes its form. Kenjiro Okazaki paintings」 A-things (東京)
- 2018年 「個展」ガレリア フィナルテ (名古屋)
- 2019年 「岡崎乾二郎 視覚のカイソウ」 豊田市美術館 (豊田)
- 2020年 「A Decade or So Ago・As Tears Go By」 Takuro Someya Contemporary Art (東京)
- 「岡崎乾二郎 TOPICA PICTUS こざかほんまち」 豊田市美術館 (豊田)
- 「岡崎乾二郎 TOPICA PICTUS てんのうず」 Takuro Someya Contemporary Art (東京)
- 「岡崎乾二郎 TOPICA PICTUS たけばし」 東京国立近代美術館 (東京)
- 「岡崎乾二郎 TOPICA PICTUS きょうばし」 南天子画廊 (東京)

主なグループ展

- 1981年 「ハラアニュアル 2」 原美術館 (東京)
- 1982年 「第12回パリ・ビエンナーレ」 パリ市立近代美術館 (パリ、フランス)
- 1983年 「今日の作家展—内面化される構造」 横浜市民ギャラリー (横浜)
- 1984年 「現代美術の現在—内面化される構造2」 東京セントラル美術館 (東京)
- 1985年 「山口の現代美術—迂回のパッサージュ」 山口県立美術館 (山口)
- 1986年 「五つの表現」 村松画廊 (東京)
- 1987年 「ART TODAY 1987—趣味の社会への平手打ち」 軽井沢高輪美術館 (軽井沢)
- 1988年 「TAMA VIVANT'88 —現代美術の6不思議 世界の模型」 シードホール (東京)
- 1989年 「ねりまの美術'89」 練馬区立美術館 (東京)
- 1990年 「Japan Art Today—現代日本美術の多様展」 セゾン現代美術館 (軽井沢)
- 1991年 「ねりまの美術'91—彫刻の現在」 練馬区立美術館 (東京)
- 1992年 「Triangle Artists' Workshop」 パインプレインズ (ニューヨーク、アメリカ)
- 1993年 「Exchange 2」 セドハーレ (チューリッヒ、スイス)
- 1994年 「戦後日本の前衛美術—Scream Against The Sky」 グッゲンハイム美術館 (ニューヨーク、アメリカ)
- 1995年 「視ることのアレゴリー1995：絵画・彫刻の現在」 セゾン美術館 (東京)
- 1996年 「美術家の冒険 多面化する表現と手法」 国立国際美術館 (大阪)
- 1997年 「庭園の会話」 文房堂ギャラリー (東京)
- 1999年 「SURFACE」 バンプ芸術センター (バンフ、カナダ)
- 2000年 「さまざまな眼112ジュリオ・ロマーノもまた、才能がある。」 かわさきIBMギャラリー (川崎)
- 2001年 「岡崎乾二郎×岡田修二展」 京都芸術センター (京都)
- 2002年 「ART TODAY 2002」 セゾン現代美術館 (軽井沢)
- 「ヴェネチア・ビエンナーレ第8回建築展 日本館 (ヴェネチア、イタリア)
- 「大分現代美術展2002 アート循環系サイト」 大分市立美術館 (大分)
- 2004年 「Straight no chaser展 迂回のパッサージュ」 人形町エキジビットスペース Vision's (東京)
- 2005年 「BankART Life 24時間のホスピタリティー ～展覧会場で泊まれるか?～」 BankART (横浜)
- 2007年 「「森」としての絵画：「絵」のなかで考える Painting as Forest : Artist as Thinker」 岡崎市美術博物館 (岡崎)
- 2008年 「わたしいまめまいしたわ 現代美術にみる自己と他者」 東京国立近代美術館 (東京)
- 2009年 「Whenever Wherever Festival 2009」 森下スタジオ (東京)
- 2011年 「所沢ビエンナーレ 引込線 2011」 旧所沢市立第2学校給食センター (所沢)
- 2013年 「ET IN ARCADIA EGO 墓は語るか 彫刻と呼ばれる、隠された場所」 武蔵野美術大学美術館 (東京)
- 2014年 「田中信太郎 岡崎乾二郎 中原浩大 かたちの発語展」 BankART Studio NYK (横浜)
- 「泥とジェリー」 東京国立近代美術館 (東京)
- 2015年 「今井俊介 岡崎乾二郎 大山エンリコイサム展」 Takuro Someya Contemporary Art (東京)

- 2017年 「Art Stage Singapore 2017」 Takuro Someya Contemporary Art, MARINA BAY SANDS (シンガポール)
- 2018年 「起点としての80年代」 金沢21世紀美術館 (金沢)
「視覚芸術百態：19のテーマによる196の作品」 国立国際美術館 (大阪)
- 2019年 「This Must Be the Place (きっとここが帰る場所) = 鄙ぶりー岡崎乾二郎新作とベネッセアートサイト直島ー」 ベネッセハウスミュージアム (直島)
「Abstraction in Asia: from 1960 to nowadays」 Vazieux - Art Gallery Paris (パリ、フランス)
- 2020年 「5,471 miles」 Blum & Poe, Tokyo (東京)

川内理香子

関連URL・SNS情報

Web : <https://waitingroom.jp/artists/rikako-kawauchi/>

1990年東京都生まれ。2017年多摩美術大学大学院を修了。身体と思考、それらの相互関係の不明瞭さを主軸に、食事・会話・セックスといった様々な要素が作用し合うコミュニケーションの中で見え隠れする、自己や他者を作品のモチーフとして、ドローイングやペインティングをはじめ、針金やネオン管など、多岐にわたるメディアを横断しながら作品を制作しているアーティスト。

略歴

- 1990年 東京生まれ
- 2015年 多摩美術大学美術学部絵画学科油画専攻卒業
- 2017年 多摩美術大学大学院美術学部絵画学科油画専攻修了

主な個展

- 2015年 「SHISEIDO ART EGG vol.9 : Go down the throat」 資生堂ギャラリー（東京）
- 2016年 「Back is confidential space. Behind=Elevator」 WAITINGROOM（東京）
- 2018年 「Tiger Tiger, burning bright」 WAITINGROOM（東京）
- 2018年 「human wears human / bloom wears bloom」 鎌倉画廊（鎌倉）
- 2020年 「Myth & Body」 日本橋三越・三越コンテンポラリーギャラリー（東京）

主なグループ展

- 2015年 「デッドヘンジ/エステティック」 HIGURE 17-15 cas（東京）
- 2016年 「Stereotypical」 GALLERY PARC（京都）
- 2017年 「ミュージアム・オブ・トゥギャザー展」 スパイラル（東京）
- 2018年 「ミュージアム・オブ・トゥギャザー サーカス」 渋谷ヒカリエ 8/COURT（東京）
- 2019年 「drawings」 ギャラリー小柳（東京）
- 2020年 「Input / Output」 銀座蔦屋書店・アトリウム@GINZA SIX（東京）

草間彌生

関連URL・SNS情報

Web : <http://yayoi-kusama.jp/>

前衛芸術家、小説家。長野県生まれ。

幼少より水玉と網目を用いた幻想的な絵画を制作。'57年渡米、巨大な絵画、ソフトスカルプチャー、鏡や電飾を使った環境彫刻を発表。'60後半には多くのハプニング、ファッション、映画も手がける。独創的な作品と活動はアート界に衝撃を与え前衛芸術家としての地位を築く。'73年の帰国後も国内外で作品を発表し、世界各地で野外彫刻を展示。精力的に制作を続け、全世界を飛び回り活躍中。

1983年、第10回野性時代新人文文学賞受賞（小説「クリストファー男娼窟」）。

2000年、第50回芸術選奨文部大臣賞、外務大臣表彰。2003年フランス芸術文化勲章オフィシェ、長野県知事表彰（学術芸術文化功労）。第18回高松宮殿下記念世界文化賞絵画部門受賞。2006年、ライフタイム・アチーブメント賞（U.S.A.）旭日小綬賞、高松宮殿下記念世界文化賞、受賞。2009年、文化功労者顕彰。2012年アメリカン・アカデミー・オブ・アーツ&レターズ会員。

略歴

1929年	長野県生まれ
1957年	渡米（1973年帰国）
2000年	第50回芸術選奨文部大臣賞、外務大臣表彰受賞
2001年	朝日賞受賞
2002年	紺綬褒章受章
2003年	フランス芸術文化勲章オフィシェ受勲、長野県知事表彰（芸術文化功労）受賞
2006年	旭日小綬賞、高松宮殿下記念世界文化賞受賞
2009年	文化功労者に選出
2016年	文化勲章受章

主な個展

1992年	「草間彌生展 はじける宇宙」草月美術館（東京）新潟市美術館（新潟）
1998年	「Love Forever : YAYOI KUSAMA 1958-1968」ロスアンゼルス・カウンティ・ミュージアム・オブ・アート、ニューヨーク近代美術館、ウォルカー・アート・センター（ミネアポリス、アメリカ）東京都現代美術館（東京）
2000年	「Yayoi Kusama」コンソルシウム（ディジョン、フランス）パリ日本文化会館（フランス）オーデンセ美術館（デンマーク）レザバトア（トゥールーズ、フランス）クンストハーレー・ウイーン（ウイーン、オーストリア）アートソングェ・センター（ソウル、韓国）アートソングェ・ミュージアム（キョンジュ、韓国）
2004年	「クサマトリックス」森美術館（東京）芸術の森美術館（札幌） 「永遠の現在」東京国立近代美術館（東京）京都国立近代美術館（京都）広島市現代美術館（広島）熊本市現代美術館（熊本）松本市美術館（松本）
2007年	「草間彌生展 水玉強迫—水玉になった愛」Haus der Kunst（ミュンヘン、ドイツ） WIELS（ブリュッセル、ベルギー）ラ・ヴィレット公園内ラ・グラン・ダール（パリ、フランス）
2008年	「YAYOI KUSAMA MIRRORED YEARS」ボイマンス・ファン・ペーニンゲン博物館（ロッテルダム、オランダ）現代美術館（シドニー、オーストラリア）シティ・ギャラリー・ウェリントン（ニュージーランド）
2011年	「Yayoi Kusama」ソフィア王妃芸術センター（マドリッド、スペイン）ポンピドゥ・センター（パリ、フランス）テート・モダン（ロンドン、イギリス）ホイットニー美術館（ニューヨーク、アメリカ）
2012年	「永遠の永遠の永遠」国立国際美術館（大阪）埼玉県立近代美術館（さいたま）松本市美術館（松本）新潟市美術館（新潟）静岡県立美術館（静岡）大分市美術館（大分）高知県立美術館（高知）熊本市現代美術館（熊本）秋田市立千秋美術館（秋田）秋田県立美術館（秋田）松坂屋美術館（名古屋）

- 2013年 「Yayoi Kusama. Obsession Infinita [Infinite Obsession]」 Malba - Fundacacion Constantini (ブ
エノスアイレス、ブラジル) Centro Cultural Banco do Brasil (リオデジャネイロ、ブラジル)
Centro Cultural Banco do Brasil (ブラジリア、ブラジル) Instituto Tomie Ohtake (サンパウ
ロ、ブラジル) ルフィーノ タマヨ美術館 (メキシコシティ、メキシコ) Fundacio´n CorpArtes (サ
ンチアゴ、チリ)
- 2015年 「YAYOI KUSAMA IN INFINITY」 ルイジアナ近代美術館 (デンマーク) ヘニーオンスタッドアートセ
ンター (オスロ、ノルウェー) ストックホルム近代美術館 (スウェーデン) ヘルシンキ市立美術館
(フィンランド)
- 2017年 「草間彌生 わが永遠の魂」 国立新美術館 (東京)

合田佐和子

関連URL・SNS情報

Web : <http://hibia.jp/artist/detail/121>

幼少期、戦災の焼け跡で溶けたガラスを拾い遊んだことからガラクタ収集癖が始まり、廃物を使ったオブジェを制作するようになる。武蔵野美術学校(現 武蔵野美術大学)を卒業後、瀧口修造に勧められ1965年個展。唐十郎主宰の劇団状況劇場・唐組、寺山修司主宰の天井桟敷の宣伝・舞台美術などに参加。当初は立体作品を、のちに絵画やポラロイド写真へとその表現は多彩な広がりを見せ、各地で個展・オブジェ展を開催。1982年「第一回現代芸術祭 瀧口修造と戦後美術」に出品。1989年東京、渋谷パルコにて個展を開催。1991年朝日新聞で中上健次の連載小説「軽蔑」の挿絵を手がける。2001年高知県立美術館で「森村泰昌と合田佐和子展」開催。2003年渋谷区立松濤美術館にて個展を開催。2016年75歳で逝去。生涯にわたり多数の作品集・個展を発表・開催した。

略歴

1940年 高知県生まれ
1963年 武蔵野美術学校（現武蔵野美術大学）卒業
2016年 逝去

主な個展

1976年 「合田佐和子個展 ハリウwoodsの顔」渋谷パルコ新館（東京）
1980年 「合田佐和子 ポートレート・夢の回廊展」渋谷西武百貨店（東京）
1989年 「合田佐和子・12進法（シュールレアリスム）前夜展」PARCO GALLERY（東京）
1997年 「ファントム」江寿画廊（京都）
1999年 「シリウスの小包み」PASTEL MUSEUM（東京）
2003年 「合田佐和子 影像（絵画・オブジェ・写真）展」渋谷区立松濤美術館（東京）
2007年 「レクイエム>」ギャラリー椿（東京）

主なグループ展

1982年 「第一回現代芸術祭 瀧口修造と戦後美術」富山県立近代美術館（富山）
2001年 「森村泰昌と合田佐和子展」高知県立美術館（高知）

近藤亜樹

関連URL・SNS情報

Web : <http://shugoarts.com/artist/54/>

1987年北海道生まれ、山形在住。「描くことは生きることそのもの」と言う近藤の作品は、質量として感じられるほどのエネルギーに満ちている。近藤は自身を通り抜けるいかなる経験や感情をも刻み込むように描くことで、記憶と現在、想像の世界を行き来して絵画という新しい体験を生み出している。

略歴

- 1987年 北海道生まれ
- 2012年 東北芸術工科大学大学院実験芸術学科終了

主な個展

- 2010年 「おひさまプール展」 Enoma (仙台)
- 2012年 「たべる地球」 シュウゴアーツ (東京)
- 2013年 「近藤亜樹の生態」 JIKKA (東京)
- 2014年 「Works on paper 2011-2014」 シュウゴアーツ (東京)
- 2015年 「HIKARI」 シュウゴアーツ (東京)
- 2017年 「飛べ、こぶた」 シュウゴアーツ (東京)
- 2018年 「Grow Wings」 蔦屋書店 アートウォールギャラリー (東京)
「あの日を待つ 明日を待つ 今日」 シュウゴアーツ (東京)
- 2020年 「心に花を」 シュウゴアーツウェブサイト (東京)

主なグループ展

- 2008年 「アーティスト・イン・レジデンス金山町」 (金山)
- 2010年 「IWAKI ART トリエナーレ2010」 いわき市内各所 (いわき)
「わかてん：山形のアーティスト展」 白鷹町文化交流センターAYu:M (白鷹)
「NIPPON ART NEXT 2010」 京都造形芸術大学外苑キャンパス (東京)
「DÉ DÉ MOUSE×TUAD ライブペイント」 東北芸術工科大学 (山形)
- 2011年 「4人展 -絵画- 池崎拓也/石井友人/鹿野震一郎/近藤亜樹」 シュウゴアーツ (東京)
- 2012年 「PHANTOMS OF ASIA: Contemporary Awakens the Past」 Asian Art Museum (サンフランシスコ、アメリカ)
- 2013年 「KISS THE HEART #2」 銀座三越 (東京)
「VOCA 展2013 現代美術の展望—新しい平面の作家たち」 上野の森美術館 (東京)
「高橋コレクション展 マインドフルネス！」 鹿児島県霧島アートの森 (鹿児島)、札幌芸術の森美術館 (札幌)
「ワンダフル・マイ・アート —高橋コレクションの作家たち—」 河口湖美術館 (富士河口湖)
- 2014年 「マインドフルネス！ 高橋コレクション展 決定版 2014」 名古屋市美術館 (名古屋)
「ア・ターブル！—ごはんだよ！ 食をめぐる美の饗宴—」 三重県立美術館 (津)
- 2015年 「ミラー・ニューロン 高橋コレクション展」 東京オペラシティアートギャラリー (東京)
- 2016年 「となりの人々-現代美術 in 春日井」 春日井文化フォーラム (名古屋)
- 2017年 「美藝礼讃—現代美術も古美術も」 セゾン現代美術館 (軽井沢)
- 2018年 「絵画の現在」 府中市美術館 (東京)
- 2019年 「高橋コレクション展 アートのふるさと」 鶴岡アートフォーラム (鶴岡)
- 2020年 「高松市美術館コレクション+ 身体とムービング」 高松市美術館 (高松)

鈴木ヒラク

関連 URL ・ SNS 情報

Web : <http://hirakusuzuki.com/>

Facebook : <https://www.facebook.com/hiraku.suzuki>

Instagram : <https://www.instagram.com/hirakusuzuki/>

1978 年生まれ。アーティスト。東京藝術大学大学院美術研究科修了。
文字や記号の発生に関心を持ち、ドローイングと言語の関係性を主題として、平面・彫刻・映像・パフォーマンスなど多岐にわたる制作活動を展開。光を反射する素材を多く用いながら、空間や時間における線の「発掘」行為を通して、ドローイングの領域を拡張し続けている。2011-2012 年アジア・カルチュラル・カウンシル (ACC) の助成によりアメリカに、2012-2013 年公益財団法人ポーラ美術振興財団の助成によりドイツに滞在した。これまでに金沢 21 世紀美術館 (石川、2009 年)、森美術館 (東京、2010 年)、ヴロツワフ建築美術館 (ポーランド、2015 年)、銀川現代美術館 (中国、2016 年)、MOCO Panacée (フランス、2019 年)、東京都現代美術館 (東京、2019-2020 年) など国内外の美術館で多数の展覧会に参加。2016 年より現代ドローイングの研究のためのプラットフォーム『Drawing Tube』を主宰。主な作品集に『GENGA』(2010 年)、『SILVER MARKER—Drawing as Excavating』(2020 年)などがある。

略歴

- 1978 年 宮城県生まれ
- 2001 年 武蔵野美術大学造形学部映像学科卒業
- 2008 年 東京藝術大学大学院美術研究科先端芸術表現専攻修了

主な個展

- 2010 年 「GENGA and Recent Drawings」 Galerie du Jour Agnes b. (パリ、フランス)
- 2011 年 「Glyphs of the Light」 WIMBLEDON space (ロンドン、イギリス)
- 2013 年 「Excavated Reverberations」 Daiwa Anglo Japanese Foundation (ロンドン、イギリス)
- 2015 年 「かなたの記号」 国際芸術センター青森 (青森)
- 2018 年 「The Writing of Meteors」 EACH MODERN (台北、台湾)
- 2019 年 「Excavating Reflections」 Galerie chantiers Boîte Noire (モンペリエ、フランス)

主なグループ展

- 2010 年 「六本木クロッシング 2010 展：芸術は可能か？」 森美術館 (東京)
- 2012 年 「One And Many」 Location One (ニューヨーク、アメリカ)
「ソニエリュミエール、そして叡智」 金沢 21 世紀美術館 (金沢)
- 2013 年 「日産アートアワード -」 BankART Studio NYK (横浜)
- 2015 年 「THINK TANK Lab Triennale」 ヴロツワフ建築美術館 (ヴロツワフ、ポーランド)
「5x3」 クンストラウム・デュッセルドルフ (デュッセルドルフ、ドイツ)
「COSMOS INTIME～内なる宇宙—高橋コレクション展」 パリ日本文化会館 (パリ、フランス)
「TRAITS d'esprit」 Galerie du Jour agnes b. (パリ、フランス)
- 2016 年 「Very Addictive - Re extension of Aesthetics in Daily Life」 銀川現代美術館 (銀川、中国)
「第 8 回恵比寿映像祭：動いている庭」 恵比寿ガーデンホール (東京)
- 2017 年 「ヒックリコ ガツクリコ ことばの生まれる場所」 アーツ前橋 (前橋)
「繊細と躍動」 ポーラ ミュージアム アネックス (東京)
- 2018 年 「コレクション展 3 見ることの冒険」 金沢 21 世紀美術館 (金沢)
- 2019 年 「MOT アニュアル 2019 Echo after Echo：仮の声、新しい影」 東京都現代美術館 (東京)
「BOOM」 MO.CO. Panacée (モンペリエ、フランス)
「球体のパレット タグチ・アートコレクション」 北海道立帯広美術館 (帯広) 北海道立釧路芸術館 (釧路) 北海道立函館美術館 (函館) 札幌芸術の森美術館 (札幌)

佃弘樹

関連URL・SNS情報

Web : https://nug.jp/ja/artists/hiroki_tsukuda

Facebook : <https://www.facebook.com/hiroki.tsukuda>

Instagram : <https://www.instagram.com/hirokitsukuda/>

twitter : <https://twitter.com/tsucom>

佃弘樹は、1978年香川県生まれ、武蔵野美術大学映像学科を卒業、以後東京を拠点に活動しているアーティスト。近年は、「**HOURL OF EXCAVATION**」(Neuer Aachener Kunstverein、アーヘン、ドイツ、2017)、「**HIROKI TSUKUDA**」(Galerie Gisela Capitain、ケルン、ドイツ、2017)、「**Enter the O**」(Petzel、ニューヨーク、2016)と精力的に個展を開催し、昨年発表した大作がニューヨーク近代美術館に収蔵されるなど、その国際的な評価を急速に高めてきた。

略歴

1978年 香川県生まれ

2001年 武蔵野美術大学映像学科卒業

主な個展

2007年 「DOCTRINE」 DIESEL DENIM GALLERY AOYAMA (東京)

2009年 「recollections」 NANZUKA UNDERGROUND (東京)

2011年 「New drawings, my journey and some memories」 TEN HAAF PROJECTS (アムステルダム、オランダ)

2014年 「BLACK OUT THUNDER STORM」 NANZUKA (東京)

2015年 「COLLA MAX」 WARHUS RITTERSHAUS (ケルン、ドイツ)

2016年 「Enter the O」 Petzel (ニューヨーク、アメリカ)

2017年 「HOURL OF EXCAVATION」 Neuer Aachener Kunstverein (アーヘン、ドイツ)

2018年 「199X」 NANZUKA (東京)

2019年 「Monolog in the Doom」 群馬県立近代美術館 (高崎)

2020年 「They Live」 Petzel (ニューヨーク、アメリカ)

主なグループ展

2006年 「Exhibition of Tokyo Graphics」 NANZUKA UNDERGROUND (東京)

2010年 「建築家白井晟一 精神と空間」 群馬県立近代美術館 (高崎)

2011年 「Verlangsamte Performance」 VAN HORN (デュッセルドルフ、ドイツ)

2012年 「Flying」 Künstlerhaus Bethanien (ベルリン、ドイツ)

2013年 「ばかにしやがって展」 TOKYO CULTUART by BEAMS (東京)

2014年 「The Noom Induction」 NANZUKA (東京)

2015年 「My Other Car is a Painting」 Galerie Gebr. Lehmann (ドレスデン、ドイツ)

2016年 「FUTURE NATURE」 Jack Hanley Gallery (ニューヨーク、アメリカ)

2017年 「Petzel at Nanzuka」 NANZUKA (東京)

2018年 「last dance - presented by Auto Center」 KINDL (ベルリン、ドイツ)

2019年 「TOKYO POP UNDERGROUND」 Jeffrey Deitch (ニューヨーク、アメリカ)

「六本木クロッシング2019展: つないでみる」 森美術館 (東京)

土取郁香

関連URL・SNS情報

Facebook : <https://www.facebook.com/fuuuuuum>

Instagram : https://www.instagram.com/fmk_____mm

1995年兵庫県生まれ、現在は京都を拠点に活動中。親密な距離関係にある2人の人物を描いた《I and You》、風景の中から色やかたちなどの要素を抽出した《a scene》の2つのシリーズを中心に絵画を制作。絵画を構成するものの物質性や虚構性とたわむれ、具象と抽象のあいだを揺れ動くようなイメージを特徴とする。

略歴

1995年 兵庫県生まれ

2020年 京都芸術大学（旧：京都造形芸術大学）大学院 美術工芸領域修士課程 修了

主な個展

2020年 「骨と皮（火を灯す・薔薇をみつけて来なければ）」 WAITINGROOM（東京）

主なグループ展

2017年 「いま、絵を ということ。」 Painting Laboratory303（京都）

2018年 「京都造形芸術大学 卒業制作展」 京都造形芸術大学（京都）

「HOP」 京都造形芸術大学 Galerie Aube（京都）

「和中庵を読む」 ノートルダム女学院中学高等学校 和中庵（京都）

2019年 「SPURT」 京都造形芸術大学 Galerie Aube（京都）

「Artist's Tiedeland KYOTO」 新宿伊勢丹メンズ館アートラウンジ（東京）

「Innocent -P-」 国立京都国際会館（京都）

「Shibuya STYLE Vol.13」 西武渋谷店美術画廊（東京）

2020年 「京都造形芸術大学大学院 卒業/修了展」 京都造形芸術大学（京都）

「A-Lab Artist Gate 2020」 A-Labあまらぶアートラボ（尼崎）

「SUBJECT」 アンテルーム京都（京都）

「アートアワードトーキョー丸の内」 行幸ギャラリー（東京）

DIEGO

関連URL・SNS情報

Instagram : <https://www.instagram.com/diego7a14>

街に落ちていたペットボトルや紙くず、路上で見かけたねずみや、道を走る車など、街で普段何気なく目にするモノをユーモラスに擬人化したキャラクターを抽象絵画として描く。

主な個展

2018年 「IMPORTANT GARBAGE」 Hidari Zingaro (東京)

2020年 「I'm looking at you」 OIL by 美術手帖 (東京)

「Always secret OK」 ON SUNDAYS (東京)

主なグループ展

2018年 「Bubble Wrap exhibition」 Contemporary Art Museum Kumamoto (熊本)

2019年 「MURAKAMI VS MURAKAMI」 Tai Kwun Contemporary (香港)

「COMIC ABSTRACTION BY WRITERS」 PARCEL (東京)

「CAPITAL MAP」 FL田SH (東京)

「TRAX selection 2019」 Gallery Trax (北杜)

2020年 「WARNING SIGNS」 Gallery Trax (北杜)

奈良美智

関連URL・SNS情報

Facebook : <http://facebook.com/michinara3>

Instagram : <https://www.instagram.com/michinara3/>

twitter : <https://twitter.com/michinara3>

1959年青森県生まれ。1987年愛知県立芸術大学修士課程修了。1988年渡独、国立デュッセルドルフ芸術アカデミー在籍終了。ケルン在住を経て2000年に帰国。1990年代半以降からヨーロッパ、アメリカ、日本、そしてアジアの各地で規模に関わらず様々な場所で展示発表を続ける。見つめ返すような印象的な絵画、日々自由に描き続けるドローイング作品のほか、木、FRP、陶、ブロンズ、そしてインスタレーションなど多様な素材や空間に生命を吹き込む様な彫刻作品を制作。また、制作の日々や旅先での出会いを収めた写真作品も発表している。近年の主な個展に、「君や僕に ちょっと似ている」横浜美術館、青森県立美術館、熊本市現代美術館を巡回（2012-2013年）「Life is Only One: Yoshitomo Nara」Asia Society Hong Kong Center（2015年）「奈良美智 for better or worse」豊田市美術館（2017年）など。2020年にはロサンジェルスカウンティ美術館で大規模個展が開催され、その後アジアの美術館へ巡回予定。

主な個展

- 2001年 「I DON'T MIND,IF YOU FORGET ME.」 横浜美術館（横浜）ほか国内巡回
- 2003年 「Nothing Ever Happens」 クリーブランド現代美術館（アメリカ）ほか全米巡回
- 2004年 「From the Depth of My Drawer」 原美術館（東京）ほか国内およびロダンギャラリー（ソウル、韓国）を巡回
- 2006年 「Yoshitomo Nara + graf A to Z」 吉井酒造煉瓦倉庫（弘前）
「Moonlight Serenade一月夜曲」 金沢21世紀美術館（金沢）
- 2007年 「Yoshitomo Nara + graf」 GEM現代美術館（デン・ハーグ、オランダ）
「Yoshitomo Nara + graf」 マガラ現代美術センター（スペイン）
- 2008年 「Yoshitomo Nara + graf」 BALTIC現代美術センター（ニューカッスル、イギリス）
- 2009年 「The Created Rooms in Iceland : Yoshitomo Nara + YNG」 レイキャビック美術館（アイスランド）
- 2010年 「セラミック・ワークス」 小山登美夫ギャラリー（東京）
「Nobody's Fool」 Asia Society Museum（ニューヨーク、アメリカ）
- 2012年 「君や僕に ちょっと似ている」 横浜美術館（横浜） 青森県立美術館（青森）
「青い森の ちいさな ちいさな おうち」 十和田市現代美術館（十和田）
- 2013年 「君や僕に ちょっと似ている」 熊本市現代美術館（熊本）
- 2014年 「3日間の奈良美智・ドローイングショウ」 沢田マンションギャラリーroom38（高知）
「Greetings from a Place in My Heart」 Dairy Art Center（ロンドン、イギリス）
- 2015年 「Life is Only One : Yoshitomo Nara」 Asia Society Hong Kong Center（香港）
- 2017年 「奈良美智 for better or worse」 豊田市美術館（豊田）

主なグループ展

- 2002年 「Drawing Now - Eight Proposition」 ニューヨーク近代美術館（ニューヨーク、アメリカ）
- 2005年 「ヨコハマトリエナーレ2005」（横浜）
- 2007年 「夏への扉ーマイクロポップの時代」 水戸芸術館現代美術ギャラリー（水戸）
- 2008年 「エモーショナル・ドローイング」 東京国立近代美術館（東京） 京都国立近代美術館（京都）
- 2011年 「CAFE in Mito 2011ーかかわりの色」 水戸芸術館現代美術ギャラリー（水戸）
- 2013年 「あいちトリエンナーレ2013」（名古屋）
「Damge Control : Art and Destruction Since 1950」 ハーシュホーン博物館群と彫刻の庭（ワシントンD.C.）

- 2014年 「ゴー・ビトゥーンズ展：こどもを通して見る世界」 森美術館（東京）名古屋市美術館（名古屋）
沖縄県立美術館（那覇）高知県立美術館（高知）
- 2020年 「STARS展：現代美術のスターたちー日本から世界へ」 森美術館（東京）
「Yoshitomo Nara」 ロサンジェルス・カウンティ美術館（アメリカ）

今後の出展予定

- 2021年 「I Forgot Their Names and Often Can't Remember Their Faces but Remember Their Voices Well」 ダラス・コンテンポラリー（アメリカ）

野澤聖

関連URL・SNS情報

Instagram : https://www.instagram.com/sho_nozawa/

遍在する「内輪な関係」をテーマとして扱う作家。稠密な写実表現は、このテーマに内在する執着と親密性を直截的に顕す為の手段である。

常に作家が重要視するのは、絵画としての自立性に加えて「それがどのような空間にあるべきか」という点である。故に殆どの作品が厳密に規定された空間によるインスタレーションとして制作される。

略歴

- 1990年 栃木県生まれ
- 2014年 東京藝術大学油画専攻卒業
- 2017年 東京藝術大学大学院油画修了

主な個展

- 2018年 「東美アートフェア2018」 東京美術倶楽部（東京）

主なグループ展

- 2017年 『東京藝術大学創立130周年記念特別展 藝「大」コレクション パンドラの箱が開いた!』
東京藝術大学美術館（東京）
- 2018年 「MITSUKOSHI×東京藝術大学夏の芸術祭2018」 日本橋三越（東京）

BIEN

1993年東京都生まれ、ドローイングを表現するアーティスト。ストリートカルチャーやアニメーションやフィギュアから影響を受けており、これらの文化の持つ様々な表現様式を受け継いだ抽象絵画制作やインスタレーションを展開。記号的な意味の解体と再構築を試みる。

略歴

1993年 東京生まれ

主な個展

- 2016年 「Living,Daylights,Room」 ANAGRA (東京)
- 2018年 「WOOZY WIZARD」 BLOCKHOUSE (東京)
- 2019年 「THINKING BOOK/CIRCUIT MAZE」 KG (東京)

主なグループ展

- 2017年 「SIDECORE-路・線・図-」 Gallery TRAX (北杜)
「Reborn-Art Festival 2017」 (石巻)
「新芸術祭2017: 150年の孤独」 (いわき)
- 2018年 「理由なき反抗」 ワタリウム美術館 (東京)
「変容する周辺近郊、団地」 八潮団地 (東京)
- 2019年 「Count the Waves -Visualizing Invisibility-」 東京藝術大学陳列館 (東京)
「Reborn-Art Festival 2019」 (石巻)
- 2020年 「PARALLEL ARCHEOLOGY展」 OIL GALLERY (東京)

水戸部七絵

関連URL・SNS情報

Web : <http://nanaemitobe.com/>

Facebook : <https://www.facebook.com/nanae.mitobe.1/>

Instagram : <https://www.instagram.com/nanaemitobe/>

twitter : <https://twitter.com/Nanaeip>

その他 : https://www.youtube.com/channel/UCOxWtDonOCv2XJ03pmxaA9A?view_as=subscriber

千葉を拠点に作家活動を行っている。2014年のアメリカでの滞在制作をきっかけに「DEPTH」シリーズを発表し、2016年の愛知県美術館にて開催された個展では、4m近くの大作一点を会場中央に展示した。2020年に同美術館で令和2年度新収蔵作品として「I am a yellow」が収蔵される。

略歴

- ××××年 神奈川県生まれ
- 2011年 名古屋造形芸術大学造形学部洋画コース卒業
- 2019年 ホルベイン・スカラシップ奨学生

主な個展

- 2014年 「ABRAHAM」 LOOP HOLE (東京)
「水戸部七絵 個展」現代HEIGHTS GALLERY DEN .ST (東京)
- 2016年 「水戸部七絵 展 MITOBE Nanae Exhibition」 gallery21yo-j (東京)
「DEPTH - Tranquil Pigment- 」 florist gallery N (名古屋)
「APMoA , ARCH vol.18 DEPTH - Dynamite Pigment -」 愛知県美術館 (名古屋)
- 2018年 「DEPTH - Blue Pigment - 」 florist gallery N (名古屋)
- 2019年 「I am yellow」 Maki Fine Arts (東京)

主なグループ展

- 2011年 「イコノフォビア-図像の魅惑と恐怖-」 愛知県美術館ギャラリー (名古屋)
- 2012年 「3331アングパンドン・スカラシップ展 vol.2」 3331アーツ千代田 (東京)
- 2013年 「掲示」 日本大学芸術学部江古田校舎 (東京)
- 2014年 「りこうなハンス」 タリオンギャラリー (東京)
- 2015年 「赤のゴルパー」 T&S GALLERY / TIME & STYLE MIDTOWN (東京)
- 2017年 「千一億光年トンネル」 ミュゼ浜口陽三・ヤマサコレクション (東京)
- 2018年 「高橋コレクション | 顔と抽象—青春白樺美術館コレクションとともに」 青春白樺美術館 (北杜)
- 2019年 「水戸部七絵 | 高山陽介 顔の奥行き」 関内文庫 (横浜)
- 2020年 2020年度第3期コレクション展 「私は生まれなおしている—令和2年度新収蔵作品を中心に—」 愛知県美術館 (名古屋)

村山悟郎

関連URL・SNS情報

Web : <http://goromurayama.com/>

1983年、東京生まれ。アーティスト。博士(美術)。東京藝術大学油画専攻/武蔵野美術大学油絵学科にて非常勤講師。東洋大学国際哲学研究センター客員研究員。自己組織的なプロセスやパターンを、絵画やドローイングをとおして表現している。

2015年、東京藝術大学美術研究科博士後期課程美術専攻油画(壁画)研究領域修了。2015-17年、文化庁新進芸術家海外研修員としてウィーンにて滞在制作（ウィーン大学哲学科 間文化哲学研究室客員研究員）。

近年の主な展覧会に、「21st Domani 明日展」国立新美術館（2019）、「瀬戸内国際芸術祭2019」男木島浜口邸、香川（2019）、「あいちトリエンナーレ2019 情の時代」、愛知（2019）、「The museum of plastic nation」AISHONANZUKA、香港（2018）、「Emergence of Order」大和日英ジャパンハウス、ロンドン（2018）など。

略歴

- 1983年 東京生まれ
- 2009年 東京藝術大学美術学部絵画科油画専攻卒業
- 2012年 東京藝術大学美術研究科絵画専攻修了（壁画第一研究室）
- 2015年 東京藝術大学美術研究科博士後期課程美術専攻油画（壁画）研究領域修了

主な個展

- 2010年 第4回シセイドウアートエッグ「絵画的主体の再魔術化」資生堂ギャラリー（東京）
- 2011年 「成層圏vol.6 私のゆくえ 村山悟郎」キュレーター：田中正之 ギャラリーαM（東京）
- 2013年 「the Coupling of second-order」HAGISO（東京）
- 2015年 「監獄のファンタジー」小金井アートスポット シャトー2F（東京）
「esolutional perspective」ギャラリーBlanka（名古屋） HIGURE 17-15 cas（東京）
- 2016年 「シミュレーションナル・ポイエーシス」Spektakel（ウィーン、ドイツ）
- 2017年 「座って見るために、画像を解除する」G/P Gallery（東京）
- 2018年 「Emergence of Order」大和日英ジャパンハウス（ロンドン、イギリス）
「The museum of plastic nation」AISHONANZUKA（香港）
- 2020年 「個展」Takuro Someya Contemporary Art（東京）

主なグループ展

- 2009年 「MOTコレクション・MOTで見る夢」東京都現代美術館（東京）
- 2011年 「TRANS COMPLEX - 情報技術時代の絵画」京都芸術センター（京都） AISHO MIURA ARTS（東京）
- 2012年 「アートアワードトーキョー丸の内 2012」行幸地下ギャラリー（東京）
- 2013年 「VOCA展2013 現代美術の展望—新しい平面の作家たち」上野の森美術館（東京）
- 2014年 「Identity X -fusion of memory ~ memory for the future-」nichido contemporary art（東京）
- 2016年 「PARALLEL」Alte Post（ウィーン、オーストリア）
- 2017年 「MUSAO- Museum astray Ottakring」MASC FOUNDATION（ウィーン、オーストリア）
- 2018年 「NEWS 2018 —東京藝術大学油画新任教員展」Yuga Gallery（東京）
- 2019年 「21st Domani 明日展」国立新美術館（東京）
「瀬戸内国際芸術祭2019」男木島浜口邸（高松）
「あいちトリエンナーレ2019 情の時代（愛知）」
- 2020年 「余白/Marginaria」キュレーション：布施琳太郎 snow contemporary（東京）

毛利悠子

関連URL・SNS情報

Web : <http://mohrizm.net/ja/>

Instagram : https://www.instagram.com/mo_hrizm/

twitter : https://twitter.com/mo_hrizm

1980年生まれ。美術家。

磁力や重力、光など、目に見えず触れられない力をセンシングするインスタレーションを制作。英国カムデン・アーツ・センターでの個展「Voluta」、十和田市現代美術館での個展「毛利悠子：ただし抵抗はあるものとする」のほか、「第5回ウラル・インダストリアル・ビエンナーレ」（ロシア）、「アジア・パシフィック・トライアニュアル2018」（オーストラリア）、「リヨン・ビエンナーレ2017」（フランス）、「コチ=ムジリス・ビエンナーレ2016」（インド）、「ヨコハマトリエンナーレ2014」（神奈川）など国内外の展覧会に参加。2015年、アジアン・カルチュラル・カウンシル（ACC）のグランティとして渡米。2015年に日産アートアワード グランプリ、2016年に神奈川文化賞未来賞、2017年に第67回芸術選奨文部科学大臣新人賞を受賞。2018年に文化庁文化交流使東アジア文化交流使として中国に滞在。現在、東京藝術大学大学院美術研究科グローバルアートプラクティス専任講師

略歴

- 1980年 神奈川県生まれ
- 2004年 多摩美術大学美術学部情報デザイン学科卒業
- 2006年 東京藝術大学大学院美術学部先端芸術表現科修了

主な個展

- 2010年 「ホリデイ ビキニ」 アップリンク・ギャラリー（東京）
- 2012年 「サーカス」東京都現代美術館ブルームバーグ・パヴィリオン（東京）
- 2013年 「りぼん/Reborn」武蔵野プレイス（東京）
- 2015年 「The Beginnings (or Open-Ended) 1」ポトラック・ビルディング・ギャラリー（名古屋）
- 2016年 「Form of the Daze」Jane Lombard Gallery（ニューヨーク、アメリカ）
- 2017年 「グレイ スカイズ」藤沢市アートスペース（藤沢）
- 2018年 「Voluta」カムデン・アーツ・センター（ロンドン、イギリス）
「ただし抵抗はあるものとする」十和田市現代美術館（十和田）
- 2019年 「Matsutake Gallery Presents Yuko Mohri」Yvon Lambert Bookshop（パリ、フランス）
- 2020年 「SP. by yuko mohri」銀座ソニーパーク（東京）

主なグループ展

- 2003年 「メディアセレクト」名古屋港北ホール20号倉庫（名古屋）
- 2005年 「時間旅行」山口情報芸術センター（山口）
- 2006年 「Ars Electronica」OK Center for Contemporary Art（リンツ、オーストリア）
- 2007年 「実験シヨウ」近畿大学国際人文科学研究所（東京）
- 2008年 「The 5th Seoul International Media Art Biennale」Seoul Museum of Art（ソウル、韓国）
- 2009年 「Coded Cultures」Museums Quartier Wien（ウィーン、オーストリア）
- 2010年 「大友良英 アンサンブルズ2010—共振」水戸芸術館現代美術ギャラリー（水戸）
- 2011年 「Alternating Currents」Perth Institute of Contemporary Arts（パース、オーストラリア）
- 2012年 「アートと音楽」東京都現代美術館（東京）
- 2013年 「見過ごしてきたもの」せんだいメディアテーク（仙台）
- 2014年 「Unseen Existence」Hong Kong Arts Centre（香港）
「ヨコハマトリエンナーレ2014」横浜美術館（横浜）
- 2015年 「スペクトラム—いまを見つめ未来を探す」スパイラルガーデン（東京）

- 2016年 「Digital Design Weekend 2016」 Victoria and Albert Museum (ロンドン、イギリス)
2017年 「Japanorama」 Centre Pompidou-Metz (メッス、フランス)
2018年 「Childhood」 Palais de Tokyo (パリ、フランス)
2019年 「Inter-Resonance: Inter-Organics」 Sharjah Art Foundation (シャルジャ、アラブ首長国連邦)
2020年 「現在地：未来の地図を描くために」 金沢21世紀美術館 (金沢)

今後の出展予定

- 2020年 「Vento [Wind] 」 Ciccillo Matarazzo Pavilion, Ibirapuera Park (サンパウロ、ブラジル)
<http://www.bienal.org.br/post/8336>
2021年 「グラスゴー・インターナショナル」 (グラスゴー、イギリス)
<https://glasgowinternational.org>
「第34回サンパウロ・ビエンナーレ Though it's dark, still I sing 」 (サンパウロ、ブラジル)
<http://www.bienal.org.br/post/7511>